

Friday

6/1

芸術を肌で感じる

第57回 多久市美術協会展

第57回多久市美術協会展（主催：多久市美術協会）が中央公民館で開催され、多久市在住者の作品を中心に、絵画や工芸、書、写真など42点が展示されました。多久市美術協会の角田隆宣すみ たかのぶ会長は「協会は創立40周年の節目を迎えることができました。今年の作品は例年に比べて、カラフルな印象があり、見ていて明るくなる作品が多くありました。ぜひ、来年もたくさんの人に見に来てほしいです」と話されました。



▲自然溢れる多久の風景を再確認



▲様々なジャンルの作品の数々

Sunday

6/3

スポーツを通して社会参加を促進

第55回 多久市障害者スポーツ大会



▲全員で競技前にストレッチ



▲一位を目指して奮闘

障害者の健康増進や親睦を目的に、第55回多久市障害者スポーツ大会（主催：多久市、多久市社会福祉協議会、多久市身体障害者福祉協会、多久市手をつなぐ育成会、しみず園）を北多久社会体育館で開催しました。大会には、市内7つの事業所と団体から、約250人が参加。パン食い競争や風船割り競争など、16種目の競技で熱戦が繰り広げられ、「身体障害者福祉協会・多久作業所チーム」が優勝しました。来場者は「スポーツを通して他の事業所の人たちと交流ができて楽しい」と競技に汗を流していました。

Tuesday

6/5

視界いっぱいに広がる鮮やかな桃色

専称寺の大ツツジが満開に

専称寺（多久町）境内にある大ツツジが、今年も満開を迎えました。このサツキツツジは、現在知られている同種のツツジの中で九州最大のツツジと言われており、昭和61年に市の天然記念物として指定されています。樹齢はおよそ650年で、枝張りは4m×4mの2株。一般のツツジよりも開花の時期は遅く、5月下旬に咲きはじめ、6月上旬に満開を迎えます。

専称寺の川副李恵かわそえりえさんは「満開のツツジを見に、檀家さんやツアー客など、たくさんの人に来ていただきました。最初はおぼろげで心配でしたが、ツツジや境内のお世話をいただいているみなさんのおかげで、例年どおりたくさんの花が咲きました」と話されました。



▲鮮やかな桃色の花々



▲満開の大ツツジ